A-1

理工学部生に提供できる英語教育を模索して
他大学の施設視察訪問を通じて
Exploring the Possibilities in English Language Education Through Facility Inspection Visits to Other Universities

○谷岡朗[1]，鈴木孝[1]，ジョセフ・ファラウト[1]，中村文紀[1]，ジョナサン・ハリソン[1]，
乙黒麻記子[1]，内堀奈保子[1],秋庭大悟[1]
* Akira Tanioka[1], Takashi Suzuki[1], Joseph Falout[1], Fuminori Nakamura[1] Jonathan Harrison[1],
Makiko Otoguro[1], Naoko Uchibori[1], Daigo Akiba[1]

Abstract: The English section of the e-learning research group has conducted various studies and experiments aimed at enhancing and developing English education to contribute to the improvement of the academic abilities of our college students. As part of these efforts, three trips were taken and several universities were visited throughout Japan to examine English language education programs, including CALL systems, facilities and their use. This report, based on the inspection results, summarizes the possibilities in English language education that could potentially be offered to our college students in the future.

１．はじめに

理工学部一般教育教室 e-learning 研究グループ（英語班）では，同 CALL 教室係と連携し，①ICT を利用した語学教育の研究・推進，②検定試験等の支援活動を柱に，理工学部生の学力向上に資する英語教育の充実と発展を目指し，これまで様々な研究や実験的試みを行ってきている．その一環として，平成 19 度年より数回にわたって，CALL 教室設備ならびにその活用を含めた英語教育プログラムにおいて独自の取り組みをしている全国の数か所の大学を視察してきた．今回は最近訪問した，平成 26 年度の九州産業大学，27 年度の大阪電気通信大学，愛知淑徳大学，28 年度の豊橋技術科学大学を例に，今後の理工学部生に提供できる可能性を秘めた英語教育について，その視察結果を踏まえて報告したい．

２．九州産業大学の場合

ちょうど視察訪問した平成 26 年度より「KSU 基盤教育」に基づいた「グローバル・イングリッシュプログラム」が始まっていた．卒業までに全学生が「日常英語会話程度の英語能力」を習得すること，さらに特別プログラムを終了した学生が「仕事で使える英語能力」を習得することを目的とした当プログラムでは，受講生は入学時に行うプレイスメントテスト（訪問時は TOEIC Bridge IP）で，最上級レベル，上級レベル，中級レベル，初級レベルに分けられ，最上級レベルの受講生には実践的な英語力の習得を目指した少人数クラスによる「キャリアイングリッシュ」という特別なプログラム授業が展開される．2 年次までに所定のプログラムを修了できた受講生から選抜された学生は，プログラムの一環として海外研修「Achiever's Job Training」が課されるというものである。最上級レベル以外はネイティブ教員による Listening & Speaking I・II と，上級はネイティブ教員，それ以外は日本人教員が担当する Reading & Writing I・II を受講するが，学期中に TOEIC Bridge で 140 点以上取得した学生はどのレベルからでも最上級クラスのプログラムへの移行が可能となっている．成績評価は，授業が 60 点，アルクネットアカデミーなどを利用したコンピュータ課題学習に基づいたミニテストが 20 点，学期末に実施されるアチーブメントテスト（TOEIC L & R IP 他）が 20 点となっている．徹底したレベル別編成授業，海外研修に直結させることで学生のモチベーションを刺激する独自プログラム，能力に応じたレベル移行を可能とする柔軟性，e-learning 学習の結果を反映させた多様な成績評価基準などが刮目に値すると言えよう．

３．大阪電気通信大学，愛知淑徳大学の場合

大阪電気通信大学では，アルクネットアカデミーの活用時に，学生に対して「学習ノルマ表」への記載とその提出を義務付け，英語学習の動機付けならびに継続性を促す学習指導につなげている．「学習ノルマ表」は，「PowerWords コースプラス」と「技術英語 PUC 語彙&例文演習」を必須項目とし，その他の「英文法コース」や「スーパースタンダ

ードコース」などから自由に選択させ，それぞれに学習すべきユニットをノルマと義務付けてその進捗状況を記載させるものとなっている．また，その他の学習教材として，任天堂 DS を利用した英単語学習や，速読用の英語リーディング教材を利用した「リーディングシャワー」という大変ユニークな課題学習も実践しており，これらも「学習ノルマ表」の記載・提出の義務付けによって、英語学習に大きな効果を挙げているようである．

愛知淑徳大学では，160 を超えるそのすべての外国語科目授業を CALL 教室で行っていること，TOEIC のスコアによって受講できる授業が決められていること，どのクラスも受講者定員を 20 名に絞っていること，課外課題としてアルクネットアカデミーが利用され，学生の英語力に応じて詳細に課題内容が決められていることなどが特徴として挙げられよう．大学には国際交流センターも設立されており，そこでは海外セミナーや TOEFL トレーニングなどを含む複数の授業も開設され，学生の外国語コミュニケーション能力，異文化コミュニケーション能力の向上を目指している．

４．豊橋技術科学大学の場合

平成 26 年度に，文部科学省が推進するプログラム「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択されており，そのプログラムに基づいた多様な取り組みが行われている．「大西プラン 2016」と命名された活動では，バイリンガル授業の導入等によるグローバル教育の推進，リベラルアーツ教育の充実による人間力の強化，基礎と専門を積み上げて学習させる「らせん教育」の実施などへの取り組みが示されている．プレイスメントテストとして実施される TOEIC のスコアによって習熟度別クラス編成が行われている英語科目においては，アルクネットアカデミーなどの e-learning ソフトを使った「英語 Online Learning」という授業が，TOEIC 対策コースを 30 時間以上学習することをノルマ化し，達成度テストを課すことで単位化されていたり，3 年生全員が受講する「英語 Grammar」という授業では共通テキストを使用し，共通テストが実施されていたり，TOEIC のスコアが 730 点を超えないと修了とならない「GAC 英語プログラム」，TOEIC の基準点に満たない学生を対象にした特別演習クラスの設置など，8 割が高専出身者，大学院進学率が 89%という大学の特徴を顕著に示すような英語教育が行われている．英語学習アドバイザー制度を導入し，学習個別相談や TOEIC 対策講座をはじめとする様々な英語講座の企画なども積極的に行っている．

５．まとめ

e-learning 研究グループ（英語班）でも，こうした他大学の視察を通して得たアイディアや利用価値の高い方策を，様々な形で取り入れようと試みている最中である．とりわけ平成 28 年度には，桜理祭開催中に外国語学習に関するトークショーを企画・実施したり，e-learning ソフトアルクネットアカデミーでの学習を前提とした単語コンテストの企画･実施を，初めて試みた．TOEIC L&R IP をプレイスメントテストとして実施している習熟度別クラス編成や，e-learning ソフトの活用など，これまで視察してきた他大学での取り組みが本校においても同様に行われていることから，他大学での多種多様な実施例が，本校の学生に対して提供できる英語教育を考える上でも大いに参考になるはずである．今後，さらなる研究，新しい試みへの挑戦を模索していきたい．

最後に、本研究は，平成20年度の「情報教育研究センター公募制研究費」による研究の一端であり，ここに記して感謝の意を表したい．

1: 日大理工・教員・一般